

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2015 年第 16 週
(4/13~4/19)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

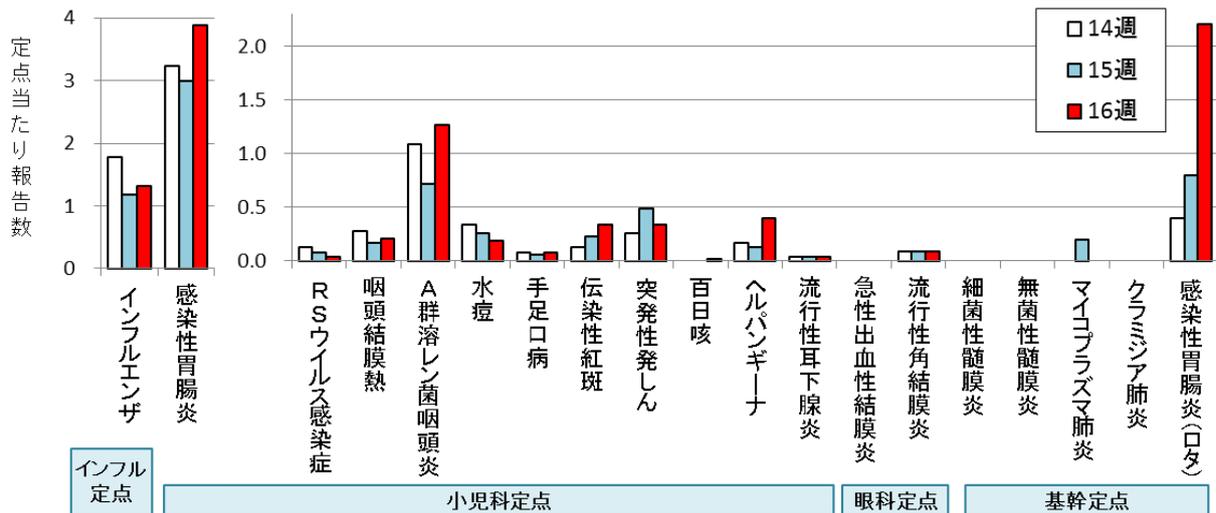
- ◇ インフルエンザがわずかに増加しています。多くはB型ウイルスによるものです。
- ◇ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が岐阜地区と西濃地区で増加しています。
- ◇ 伝染性紅斑が岐阜保健所管内で多く報告されています。
- ◇ ヘルパンギーナが例年より早く増加しており、特に岐阜保健所管内で多く報告されています。
- ◇ ゴールデンウィークに海外に渡航される方は、感染症に注意しましょう。 →トピックス

■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 7 例
- 3 類感染症：なし
- 4 類感染症：レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：侵襲性肺炎球菌感染 2 例

● 2015 年累計

1 類感染症	なし	
2 類感染症	結核	109 例
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 例
	腸チフス	1 例
4 類感染症	デング熱	3 例
	レジオネラ症	7 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	5 例
	ウイルス性肝炎	1 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	20 例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4 例
	水痘（入院例）	2 例
	後天性免疫不全症候群	4 例
	梅毒	2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

感染症発生動向調査週報 (IDWR) <http://www.nih.go.jp/niid/ja/idwr.html>

■トピックス

《海外で気を付けたい感染症》

ゴールデンウィークには、多くの方が海外へ渡航されます。環境が大きく異なる海外では、食べ物、飲料水、虫さされ、動物との接触などで日本では発生していない感染症にかかることがあります。

近年、海外で感染して帰国後に発症する輸入感染症が全国で多く報告されるようになり、県内でも毎年報告されています（表1）。疾患によっては、昨年のデング熱のように、輸入症例を発端として国内で感染が拡大する可能性もあります。安全で快適な旅行にするためにも、また国内に感染症を持ち込まないためにも、正しい知識と予防方法を身につけましょう。

◆ 蚊が媒介する感染症

デング熱、チクングニア熱、マラリア、ウエストナイル熱など

蚊が媒介する感染症は世界的に多く報告されています。特に熱帯・亜熱帯地域ではデング熱、チクングニア熱、マラリアなどに注意が必要です。長袖・長ズボンを着用し、虫除けスプレーを利用するなど、蚊に刺されないよう対策をしましょう。屋外だけでなく、都市部や室内でも注意が必要です。

◆ 食べ物・飲み水からうつる感染症

コレラ、赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、E型肝炎、A型肝炎など

海外に渡航して最も感染する可能性が高いのが、食べ物・飲み物を介した消化器系の感染症です。衛生状態の悪い地域では、水が様々な病原体に汚染されている可能性があります。生水を飲むのは避け、ボトル入りの飲料水を買うか、水道水の場合は沸騰させてから飲みましょう。現地の屋台などでは、飲み物に入っている氷、カットフルーツやサラダなども、現地の水が使用されている場合があるので注意が必要です。また、生肉や生魚なども避け、十分に加熱されたものを食べましょう。

◆ 動物からうつる感染症

狂犬病、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、マールブルグ病など

動物から感染する感染症は数多く、中には危険なものがありますので、動物にはむやみに触らないようにすることが大切です。

狂犬病は、日本やオーストラリア、英国など一部の地域を除いて世界中で発生しています。犬だけでなく、猫、コウモリ、アライグマなどに咬まれることによって感染することが知られています。海外では犬が放し飼いにされていることがありますが、人に慣れていても近寄らないことが安全です。

また、中国では鳥インフルエンザ(H7N9)の患者が、東南アジアなどでは鳥インフルエンザ(H5N1)の患者が発生しています。これらの地域では、野生の鳥や死んだ鳥に触ったり、鳥を飼育している場所や鳥を売買している市場に不用意に近づいたりするのはやめましょう。

◆ 中東呼吸器症候群（MERS : マーズ）

MERS コロナウイルスによって起こる感染症で、2012年に初めて報告され、これまで中東を中心に患者が報告されています。

感染経路は現在のところ不明ですが、ラクダがウイルスを持つ中間宿主であることがわかっています。中東に渡航する方は、石けんと流水による手洗いを励行し、生肉や不衛生な状況で用意された食品を避けるなど一般的な衛生対策を心がけ、ラクダとの接触や未殺菌のラクダ乳の摂取は避けましょう。

◆ 麻しん

麻しんは世界中で発生が報告されており、感染力が非常に強く、輸入症例によりウイルスが持ち込まれると国内で感染が拡大するおそれがあります。昨年はフィリピンで麻しんが流行したことにより、国内でもフィリピンからの輸入症例が多く報告されました。今年3月に、日本は麻しんの排除状態にあることが WHO（西太平洋地域事務局）により認定されましたが、今後は海外からの持ち込みを防いでいくことが重要になっています。

麻しんは風しんとともに予防接種で予防が可能な感染症です。自身の感染を防ぎ、国内へのウイルスの持ち込みを防ぐためにも、ワクチン接種を受けていない場合は、渡航前に予防接種を検討しましょう。

渡航前に渡航予定地でどのような感染症が流行しているか詳しい情報を確認しましょう。

参考：検疫所 HP <http://www.forth.go.jp/>

表 1 県内の輸入感染症患者の報告

年	疾患名	報告数	感染地域（推定含む）	主な感染経路
2012年	E型肝炎	1	ベトナム	汚染された食品・飲料水の摂取
	A型肝炎	1	ペルー	
	アメーバ赤痢	5	カンボジア(2)、中国(1)、タイまたはマレーシアまたは中国(1)、不明(1)	
	チクングニア熱	1	インドネシア	蚊による吸血
	計	8		
2013年	細菌性赤痢	3	インド(3)	汚染された食品・飲料水の摂取
	A型肝炎	1	インド	
	アメーバ赤痢	1	台湾	蚊による吸血
	デング熱	4	インド、タイ、インドネシア、ペルー	
	類鼻疽	1	フィリピン	傷口への土の接触
計	10			
2014年	細菌性赤痢	1	キプロスまたは UAE	汚染された食品・飲料水の摂取
	アメーバ赤痢	3	タイ(2)、インド(1)	
	チクングニア熱	1	インドネシア	蚊による吸血
	デング熱	7	フィリピン(2)、マレーシア(2)、インドネシア(1)、タイ(1)、モルディブ(1)	
	マラリア	1	アンゴラ	
	レジオネラ症	1	ベトナム	汚染水のエアロゾル吸入
	麻しん	3	フィリピン(3)	感染者との接触・空気感染
計	17			
2015年 (1～16週)	腸チフス	1	インドネシア	汚染された食品・飲料水の摂取
	アメーバ赤痢	1	カンボジア	
	デング熱	3	インドネシア(2)、ブラジル(1)	蚊による吸血
	計	5		